

第4回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和6年11月21日（木）10時30分～14時30分 参加者：34名（うち市町村等から20名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「保護者と子どもを応援するために支援チームができることを考えよう」というテーマのもと、今年度4回目の研修を行いました。午前は、身近なところから支援のつながりを広げた講師の実践例をもとに、参加者自身のつながりの広がりや新たな支援の可能性について考えました。午後の協議では3回の研修の振り返りに続き、参加者同士の意見交流により「実際にやってみたい支援」について具体的にイメージしました。一人ひとりが「つながりの力」による新たな取組に向けて一歩踏み出すきっかけづくりとなる、今年度のまとめに相応しい内容の研修となりました。

【午前の部 講話・演習】

岩手県教育委員会事務局中部教育事務所で主任社会教育主事として社会教育を担当されている **秋澤 美加子** 氏が、「家庭教育支援を充実させる『つながりの力』」と題してお話しされました。始めに、社会教育と読書の親和性に着目して、家庭教育支援に携わる人たちと読書活動関係者が一堂に会する研修会を企画され、そこから生まれた「つながり」が「学校へ行ってみよう会」に代表される新たな協働活動を生み出していったことを紹介されました。

後半の演習では、「いわての復興教育絵本『だいじなもの』」を用い、誰かとつながることで新たにできそうな取組について、グループで意見交換をしながら考えました。そして最後に「自分がやってみたいこと」を1つ挙げ、付箋に書きました。その内容を紹介する参加者の表情からは、それぞれが「つながりの力」がもつ可能性を信じ、今後の取組に向けて気持ちを新たにしている様子が感じられました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・講話では「つながり」の力が成長して大きくなっていくことに驚き、感動しました。グループワークでは、他の参加者の意見を聞くことで可能性が広がりました。
- ・読書や本を通じたネットワークの広がり、テーマである「つながり」の強さを感じました。業務の枠を越えて活躍される姿に「楽しむことの大切さ」を感じました。

【午後の部 協議】



秋田県生涯学習センター主任社会教育主事 **長谷川 工** が「保護者と子どもを応援するために～つながりの力で自分たちができることは～」と題した協議をファシリテートしました。

始めに今年度の3回の研修を振り返り、様々な主体が連携・協働して、家庭での困り感に応じた支援を考えていくことの重要性を確認しました。これを踏まえて「つながりの力で自分たちができること」を挙げ、グループ内で紹介し合いました。次に、テーブルウォーク形式で他のグループの意見も見ながら、参加者全体で自由な意見交換をしました。

参加者はこの活動から様々なヒントを得たようで、アンケートに「参考になった」との感想が多くありました。最後にまとめた付箋には「防災」の記述が多く、家庭教育支援に関する取組として、新しい防災キャンプ等の企画につながるような方向性が垣間見えた協議となりました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・1人ではとても思いつかないアイディア、発想にふれ、改めて協働、話し合いの大切さを感じました。初めて話す方とも自然にうちとけることができ、上手な場づくり、雰囲気づくりを実感しました。
- ・いろいろな話をするのができ、いろいろな考えを聞くことができました。いろいろなアイディアを生かして自分のことを実行に移すことが大事であることを確認させられました。